

**CONTENTS**

- 活動報告・各種会議議事録
- 会員異動
- 学会関連カレンダー
- 学会主催会議等の詳細
- 日本農薬学会第39回大会の御案内
- 農薬科学研究補助金の交付申請について
- 第13回IUPAC農薬化学国際会議の渡航費補助について
- 技術士試験対策セミナー

本会記事**平成25年度第1回常任評議員会議事録**

日 時：平成25年7月27日（土）12:30～16:00

場 所：日本植物防疫協会 地下会議室

出席者：会長，副会長，常任評議員 計13名（欠席1名）

議 事：

I. 平成25年度第1回常任評議員会議事録について確認した。

II. 経過報告および議事

1. 総務関係

- ・ホームページ委員会の追加委員がメール審議（6月7～13日）にて承認された旨報告があった。
- ・平成25年度第2回残留農薬分析Q&Aセミナー（7月25日）の開催がメール審議（6月15～17日）にて承認された旨報告があった。
- ・故松村名誉会員のご遺族からの寄付金受入について、メール審議（6月24～25日）による受入の承認および寄付金受入の完了の報告があった。

2. 財務委員会

- ・平成25年度収支予算管理月報（1月1日から7月25日まで）の報告があった。

3. 編集委員会

- ・平成25年度の投稿審査状況について報告があった。
- ・JPS第38巻の英文誌（3号）と和文誌（2号）の発送予定および電子ジャーナル公開の状況・予定につ

いて説明があった。

- ・論文賞候補論文の選考について進捗状況の報告があった。

4. 環境委員会

- ・環境委員会の活動状況について報告があった。
- ・平成25年度第2回残留農薬分析Q&Aセミナーの開催について報告があった。
- ・残留農薬分析セミナーの準備状況について報告があった。
- ・他機関との意見交換に関する進捗状況について報告があった。

5. 将来計画委員会

- ・将来計画委員会の活動状況について報告があった。

6. 学会賞受賞者選考委員会

- ・平成26年度の日本農薬学会賞の候補者の推薦および選考状況について報告があった。

7. 日本農学会関連

- ・日本農学会から内閣へ提出予定の「農学研究に係る要望書」の共同提案者となる旨説明があった。

8. 国際会議関連

- ・2014年に開催される第13回国際農薬化学会議（サンフランシスコ）の説明があった。

9. 学術会議関連

- ・植物保護科学連合と主催する平成25年度日本学術会議シンポジウム「新しい植物保護技術への展望」（11月16日）について報告があった。

10. 学会細則の改定について

- ・学術小集会委員長委嘱に関する学会細則の改訂について審議した。今後、評議員会にて承認を求めることとした。

11. 「リポジトリの取扱について」の改定について

- ・大会講演要旨集の取扱について、継続して検討することとした。

12. 「日本農薬学会学術小集会活動経費取扱に関する申合せ」の改定について

- ・申し合せ改定案の説明があり、これを元に学術小集会側と意見交換して検討していくこととした。

13. 「学会ホームページへの求人情報掲載に関するメモ」

について

- ・求人情報掲載の手順と求人広告申込書に関する「学会ホームページへの求人情報掲載に関するメモ」が承認された。
- 14. 今年度の「農薬科学研究補助金」の公募・審査方法およびスケジュールについて
 - ・農薬科学研究補助金交付者の選考方法は前年同様に進めることが承認された。一次審査期間に余裕を持たせるスケジュールを検討することとした。
- 15. 会計年度（事業年度）と役員年度について
 - ・会計年度と役員・審査員等の年度の開始日が3ヶ月ずれていることに関しては、法人化と併せて検討していくこととした。
- 16. 他機関への受賞候補者推薦について
 - ・他機関からの授賞候補者推薦依頼は、会員へ随時周知しているが、該当者の利便のためにホームページ上にリスト化する旨説明があった。
- 17. 入退会の報告（平成25年4月15日～平成25年7月15日）
 - ・入退会が承認された。入会は正会員21名、海外会員1名、団体会員1社。退会は正会員13名、学生会員2名、海外会員2名、団体会員1社。
- 18. 大会関係
 - ・第39回大会開催準備の進捗状況の報告があった。
- 19. 第40回記念行事について
 - ・記念大会の開催予定地に関する検討状況の報告があった。
 - ・記念事業の内容について引き続き検討していくことが確認された。
- 20. 学会の法人化について
 - ・法人化に関する情報の説明があり、引き続き検討していくことが確認された。
- 21. その他
なし

平成25年度学術小集会委員長との懇談会議事録

日 時：平成25年9月7日（土）15:40～17:10
場 所：日本植物防疫協会 地下会議室
出席者：小集委員長7名（代理出席3名）、常任評議員会メンバー 14名（重複2名）

議事内容：

1. 各学術小集会の平成24年度活動結果報告および平成25年度活動状況報告
 - ・各委員長から昨年度の活動結果および本年度の活動状況（研究会の開催予定を含む）が報告され、常任

評議員会との質疑応答があった。

2. その他、連絡事項など
 - ・学術小集会の講演要旨や出版物に関わる著作権への対応について質問があり、今後検討していくこととなった。
 - ・学術小集会活動に関する予算執行等の取り扱いに関する申合せについて、会計担当から各小集会委員長に説明があった。
 - ・講師への謝礼・交通費の支払への各委員会の対応について情報交換した。
 - ・農薬科学研究補助金交付制度の申請時期が早まったため、公募の広報への協力を各小集会にお願いした。
 - ・各小集会での優秀発表を大会で発表することを考慮していただくようお願いした。
 - ・シンポジウム、セミナー等の開催予定の早期公表に協力いただくようお願いした。
 - ・各小集会委員長に学会の法人化へ向けた取り組みの現状と今後も情報提供していくことが説明された。

第184回常任編集委員会（メール会議）議事要旨

日 時：平成25年4月3日（水）、4月23日（火）、4月26日（金）、6月26日（水）発信

議 事：

- (1) 寄稿された随想記事の掲載を検討した。談話室を復活は今後の検討課題とした。
- (2) Journal of Pesticide Science (JPS) 38巻2号の掲載予定論文の題目審査を行い、掲載を承認した。
一部の題目を修正し総説2編、原著論文3篇、短報2編を承認した。
- (3) 論文賞の推薦要領などを確認した。昨年度に準じた資料を確認し、推薦依頼を行うとともに、その選考手順に従って次回の委員会で選考を行うこととした。
- (4) 日本農薬学会誌（農薬誌）38巻2号の表紙の画像に関して、掲載される記事から最適な画像を選択することとした。

第185回常任編集委員会議事要旨

日 時：平成25年8月3日（土）14:00～16:30
会 場：東京農工大学 大学院BASE 本館3階会議室
出席者：9名 欠席者：4名

議 事：

- (1) 第184回常任編集委員会（メール会議）議事録の確認：4回のメール会議の議事に関して確認を行った。
- (2) 農薬誌38巻2号：掲載内容を確認した。
- (3) JPS 38巻3号：掲載内容を確認した。

- (4) JPS 38巻4号：論文等の掲載承認および題目審査をおこなった。
- (5) 論文のダウンロード状況：2013年から急にダウンロード数が増えた。
- (6) 投稿・審査状況：2013年の投稿は53論文、昨年の積み残しは8論文である。
- (7) J-Stageでの公開に関して：JPS38巻3号は8月20日Web公開予定、ただし、諸事情により早期公開が非常に短期間になる。農業誌38巻1号は8月20日Web公開予定、和文用の著作権の表記を「©日本農薬学会」に変更する。
- (8) Editorial Managerに関連した講演「査読パフォーマンスを向上させるために—医学系ジャーナルの事例を基に」の内容に関する説明があった。
- (9) 読み物企画：進捗状況も含めて、次回委員会で報告予定である。
- (10) 常評報告：第39回日本農薬学会京都大会の進捗状況が報告された。
- (11) 論文賞の選考：19名の編集委員から8論文の推薦が寄せられた。メール会議（5月7日）で検討した論文賞受賞候補論文の推薦要領、選考手順、選考方法を進めることを確認し、それらに基づいて論文賞候補論文を選考した。

平成26年度日本農薬学会賞第2回選考委員会議事録

日 時：平成25年10月5日（土）13:30～16:45

場 所：植物防疫会館地下階会議室

出席者：13名

議 事：

1. 選考委員の2/3以上が出席していることから選考委員会は成立していることを確認した。
2. 推薦のあった奨励賞、業績賞（研究）、業績賞（技術）の各候補について、選考に関する内規に基づいて厳正に選考を行い、奨励賞2件、業績賞（研究）1件、業績賞（技術）2件の授賞候補を決定した。
論文賞については、学会誌編集委員会より推薦のあった論文を授賞候補とすることを決定した。
今後、上記授賞候補に対して、評議員による受賞可否投票の手続きにはいる。
3. その他

会 員 異 動

（平成25年4月16日～平成25年7月15日）

入会

正会員

白井 裕一 酒井 正明 石本 泰彦 夏原 活也
安西 正人 川崎 悦子 岩崎 克彦 井上 知美

布山 美恵 川口 未里 阿部 智早絵 馬場 康治
西 康司 坂田 和之 白倉 秀敏 早坂 大亮
鈴木 勝士 藤條 純夫 秋吉 信行 倉持 幸司
加嶋 崇之

海外会員

Kanapol, Jutamanee

団体会員

クニミネ工業株式会社

（受付順）

退会

正会員

一谷 多喜郎 宮部 正樹 小倉 岳彦 田中 薫
富田 恭範 松戸 健治 寺田 充芳 下城 英一
瀧 晴香 島谷 真幸 上野 泰 白石 悠祐
小野 大騎

学生会員

石原 大 池澤 雄一

海外会員

暮沼 武士 Dequn Sun

団体会員

生活協同組合コープさっぽろ

学会関連カレンダー

太字は日本農薬学会が主催、共催、協賛する会議等

2013年

11月

21日（木）～22日（金）第31回農業環境科学研究会

主 催：日本農薬学会 農業環境科学研究会

会 場：エクシブ琵琶湖 [〒521-0004 滋賀県米原市磯1477番2]

U R L : <http://pssj2.jp/committee/environment.html>

12月

9日（月）第21回農業レギュラトリーサイエンス研究会

主 催：日本農薬学会 農業レギュラトリーサイエンス研究会

会 場：東京農業大学 百周年記念講堂 [〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1]

U R L : <http://pssj2.jp/committee/regula/regula21.html>

2014年

2月7日（金）残留農薬分析セミナー2013

主 催：日本農薬学会

会 場：東京都農林総合研究センター [〒190-0013 東京都立川市富士見町3-8-1]

U R L : <http://pssj2.jp/overview/z-sem13.html>

学会主催会議等の詳細

3月

13日(木)～15日(土) 第39回日本農薬学会大会

主 催：日本農薬学会

会 場：京都大学

U R L : <http://pssj2.jp/calendar/nextyear.html>

15日(土) 第11回農薬バイオサイエンス研究会

主 催：日本農薬学会 農薬バイオサイエンス研究会, 日本農薬学会大会

会 場：京都大学 農学部総合館 [〒606-8502 京都市左京区北白川追分町]

26日(水)～28日(金) 第58回日本応用動物昆虫学会大会

主 催：第58回日本応用動物昆虫学会

会 場：高知大学

U R L : <http://odokon.org/event/>

4月

25日(金) 第31回農薬生物活性研究会シンポジウム

主 催：日本農薬学会 農薬活性研究会

会 場：東京農業大学 校友会館グリーンアカデミー3F 大会議室 [〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1]

U R L : <http://pssj2.jp/committee/kassei/kassei31.html>

6月

2日(月)～4日(水) 平成26年度日本植物病理学会大会

主 催：日本植物病理学会

会 場：札幌コンベンションセンター [〒003-0006 札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1]

U R L : <http://www.knt.co.jp/ec/2014/pssj/kyousan.html>

8月

10日(金)～14日(火) 第13回IUPAC農薬化学国際会議

主 催：IUPAC, ACS-AGRO

会 場：San Francisco Marriott Marquis [780 Mission Street · San Francisco, California 94103 USA]

U R L : <http://www.iupac2014.org>

9月

11日(木)～12日(金) 第34回農薬製剤・施用法研究会

主 催：日本農薬学会 農薬製剤・施用法研究会

会 場：神戸国際会議場国際会議室 [〒850-0046 神戸市中央区港島中町6-9-1]

U R L : <http://pssj2.jp/committee/seizai/seizai34.html>

第21回農薬レギュラトリーサイエンス研究会 シンポジウム

主 催：日本農薬学会 農薬レギュラトリーサイエンス研究会

日 時：平成25年12月9日(月) 10:00～17:00

場 所：東京農業大学 百周年記念講堂 [〒156-8502 世田谷区桜丘1-1-1]

交 通：小田急線経堂駅または千歳船橋駅から徒歩15分

U R L : http://www.nodai.ac.jp/access/map_s.html

テーマ：農薬の残留(作物・土壌)に関する登録制度及び評価のあり方(仮題)

概 要：

農薬レギュラトリーサイエンス研究会は、サイエンスを基本に農薬に関する評価や規制のあり方、リスクベネフィットの評価等について検討し、今後の農薬のあり方を考えることを目的に活動しています。今年度のシンポジウムでは、改めてレギュラトリーサイエンスについて認識し、農薬の残留に係るリスク評価に関してレギュラトリーサイエンスをもとに考えることにしました。TPPなど多くの問題が想定されている中、作物残留や土壌残留を話題に今後の食の安全について意見を交換したいと思います。

プログラム：

講演(講演順ではなく、また、演題が変更される場合があります。講演時間：1;100分, 2～6;50分.)

- 1) レギュラトリーサイエンスとその農薬残留基準設定への応用
山田友紀子氏(農林水産省顧問)
入江真理氏(農林水産省消費安全局農産安全管理課農薬対策室)
- 2) 作物残留試験の課題について—食品中残留農薬の加工調理による影響—
坂真智子氏((一財)残留農薬研究所 化学部)
- 3) 土壌残留リスク管理手法
更田真一郎氏(環境省農薬環境管理室)
- 4) 後作物残留試験の課題
岩船敬氏((独)農林水産消費安全技術センター農薬検査部)
(共同講演者：元木裕, (独)農業環境技術研究所)
- 5) 欧米における土壌残留, 後作物残留規制の現状
元場一彦氏(日本農薬(株)研究開発本部総合研究所)
- 6) 土壌環境と農薬
山本廣基氏((独)大学入試センター)

研究会参加費：4000円

情報交換会費：4000円

参加申し込み：

氏名、所属、情報交換会の参加の有無をご連絡ください。
申し込みをいただきましたら、確認のため参加申し込み受理しました旨、返信致します。なるべくメールにてお願い致します。

(メール) 農薬レギュラトリーサイエンス研究会 星野
敏明 宛

pssj_reg_science@yahoo.co.jp

(ファックス) 農薬学会事務局宛 FAX: 03-5980-0282

問い合わせ先：農薬レギュラトリーサイエンス研究会 星野
敏明

pssj_reg_science@yahoo.co.jp

残留農薬分析セミナー 2013 (第2回)

主催：日本農薬学会

日時：平成26年2月7日(金)

場所：東京都農林総合研究センター [〒190-0013 東京都立川市富士見町3-8-1]

交通：JR中央線立川駅南口より西武バス立川駅北口行き
10分「農業試験場前」下車，または，JR青梅線西立川駅より徒歩7分

定員：18名まで(先着順，開催当日での申込・参加はできません)

URL：<http://pssj2.jp/overview/z-sem13.html>

恒例となりました残留農薬分析セミナーは、今年度は2回の開催を予定しています(第1回は終了しました。ご参加くださいまして、ありがとうございました)。今年度のセミナーは、1) 講義(前処理を中心に)、2) 実習または実演、3) 総合討論の3部構成になっており、残留分析に係る知識の習得だけでなく、体験的な学習もできます。講義においては、残留農薬分析に係る法律、農薬残留分析技術の基礎・応用、生産現場の状況、分析機器等の技術進歩等、幅広い情報提供を予定しています。また、総合討論では、皆様の日頃の疑問やお悩みに応えることを主目的にしておりますので、皆様ふるってご参加下さい。

なお、詳細については、学会ホームページを更新してお知らせしてまいりますのでご参照下さい。

内容：(予定)

1. 残留農薬分析に係る法律と背景
2. 残留農薬分析の概要と留意点
3. 分析技術の最近の進歩
4. 残留農薬分析実験の内容と進め方
5. 残留農薬分析実験
6. 総合討論

参加費：

学会員 10,000円、非会員 23,000円

参加費(含むテキスト代、昼食代)は当日お支払いください。

事前または当日に農薬学会に入会(年会費8,000円)される場合は学会員の参加費が適用されます。学会員の扱いは個人会員に限っており団体会員は対象になりませんのでご承知おきください。また、個人会員の方におかれましても、2013年の学会費が納入されていることが必要ですので、もし納入されておられない場合には開催日までに納入されますようお願いいたします。

セミナーでは「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ改訂3版2012」(日本農薬学会より出版)をテキストとして使用します。尚、開催日当日にテキストも販売しますので、追加購入を希望される方はお求め下さい(1冊2,500円)。

ご参加の際には、実技ができる服装のご準備をお願いします。

申し込み先及び問い合わせ先：

日本農薬学会宛に(下記 E-mailあるいはFAX)、『参加希望開催日と場所、氏名、所属、連絡先(E-mailアドレス、TEL番号、FAX番号)、本分析セミナーへの参加回数(はつきりしない場合には、おおよその数で構いません)』をご連絡ください。

日本農薬学会 E-mail: nouyaku@mocha.ocn.ne.jp

FAX: 03-5980-0282

不明点等につきましても上記にお問合せください。

日本農薬学会第39回大会の御案内

日本農薬学会第39回大会を平成26年3月13日（木）から15日（土）までの3日間にわたって京都大学にて開催致します。京都での開催は25年ぶりでございます。本学会員ならびにご関心をお持ちの皆様におかれましては、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。一般講演の充実のため、学術小集会などの発表で評価されたご研究についても本大会での発表を歓迎致します。植物防疫関係2学会（日本植物病理学会、日本応用動物昆虫学会）および日本雑草学会と植物化学調節学会の正会員・学生会員の方も本学会会員扱いで参加・発表いただけますので、お近くの関係学会員の方にお誘いいただければ幸いです。もちろん、非会員の方のご参加も歓迎致します。

大会関係の記事は、下記のように本News Letterと学会誌に掲載致します。また、詳細を大会ホームページで随時お知らせ致します。

- News Letter 2013年第4号（平成25年11月20日発行）：大会案内、一般講演申込み要領、事前割引登録要領
- 日本農薬学会誌39巻1号（平成26年2月20日発行）：大会日程、プログラム、会場案内

I. 開催場所

総会、学会賞授与式、受賞講演、特別講演、懇親会・受賞祝賀会

『京都大学・百周年時計台記念館』（http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/map6r_y.htm）

JR京都駅の京都市バス「A2のりば」から17号系統「銀閣寺・錦林車庫」行、または「D2のりば」から206号系統「東山通 北大路バスターミナル」行で、「百万遍」下車（所要35分、徒歩5分）。

または、JR京都駅から京都市営地下鉄「国際会館」行で「今出川」下車、出入口3番近くのバス停「烏丸今出川」から201号系統「百万遍・祇園」行で、「百万遍」下車（所要30分、徒歩5分）。

一般講演、シンポジウム、ランチョンセミナー、展示

『京都大学・農学部総合館』（http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/map6r_n.htm）

JR京都駅の京都市バス「A2のりば」から17号系統「銀閣寺・錦林車庫」行で、「京大農学部前」下車（所要37分、徒歩1分）。

または、JR京都駅から京都市営地下鉄「国際会館」行で「今出川」下車、出入口3番近くのバス停「烏丸今出川」から203号系統「今出川通 銀閣寺道・錦林車庫」行で、「京大農学部前」下車（所要32分、徒歩1分）。

II. 会期および日程

平成26年3月13日（木）～3月15日（土）

月・日	午 前	昼	午 後	会 場
3月13日（木）	総会、受賞式		受賞講演、特別講演 懇親会・受賞祝賀会	京都大学百周年時計台記念館
3月14日（金）	シンポジウム1	ランチョンセミナー（2件）	一般講演	京都大学農学部総合館
3月15日（土）	シンポジウム2	ランチョンセミナー（2件）	一般講演 技術士試験対策セミナー	京都大学農学部総合館

評議員会および編集委員会は、3月12日（水）に京都大学農学部・旧演習林事務室で開催致します。詳細については別途ご案内致します。

重要な締切日

- 一般講演申込み締切 平成26年1月14日（火）
- 講演要旨原稿提出締切 平成26年1月20日（月）
- 事前参加登録締切 平成26年2月3日（月）

III. 特別講演およびシンポジウム

1. 特別講演

- (1)「化学物質の毒性・薬理作用を、遺伝学的手法を使って解析する手法の開発」
京都大学大学院医学研究科 武田俊一 教授
- (2)「食品安全のためのリスクアナリシスとレギュラトリーサイエンス」
京都大学大学院農学研究科 新山陽子 教授

2. シンポジウム

- (1)「環境負荷のより小さい病害虫防除に向けて」
オーガナイザー 谷川元一（奈良県農業総合センター）
川戸直子（京都府農林水産技術センター）
- (2)「生命と農薬科学：ターゲットを知る」
（日本農薬学会バイオサイエンス研究会と合同開催）
オーガナイザー 松田一彦（近畿大学農学部）
乾 秀之（神戸大学自然科学系）

IV. ランチョンセミナー

会期中の昼食時に昼食（お弁当）付のランチョンセミナーを開催致します。詳細は追ってご案内致します。

V. 技術士試験対策セミナー

3月15日（土）午後開催致します。詳細は追ってご案内致します。

VI. 一般講演申込（一般講演申込み期限は平成26年1月14日（火））

一般講演申込は、本学会会員（および冒頭で記載した4学会の会員）で平成26年度分会費納入者に限ります。受付はすべてWeb上で行い、平成25年12月2日（月）より開始します。一般講演を申し込まれる場合は、1演題ごとに発表代表者が次の1～3を行ってください。

1. 平成26年1月14日（火）までに日本農薬学会ホームページ（<http://pssj2.jp/>）の「大会案内」より次回大会をクリック、次に「事前参加登録」をクリックして、トップツアー（株）の事前参加登録ページ（<https://conv.toptour.co.jp.shop/evt/pssj39>）に移り、「IX. 参加登録」の項に従って、事前参加登録を行ってください。事前参加登録をされませんと、一般講演の申込はできません。一般講演を行わない参加者の方も、必ず事前登録を行ってください。
2. 一般講演申込の受付は、平成25年12月2日（月）から、Web上で開始致します。1の参加登録手続き後に、トップツアー（株）の事前参加登録ページにログインし、マイページ左側メニューの「一般講演申込」から手続きを行ってください。（一般講演申込締切：平成26年1月14日（火））
3. 2の一般講演申込手続き後に、下記「VII. 講演要旨原稿の作成について」の項をご参照の上、講演要旨原稿を作成してください。講演要旨原稿はトップツアー（株）の事前参加登録ページにログインし、「一般講演申込」でアップロードすることによって提出してください。（要旨提出締切：平成26年1月20日（月））。詳しくは、「VII. 講演要旨原稿の作成について」の項をご覧ください。

※一般講演申込の入力内容について

一般講演申込においては、①演題名、②発表者氏名（連名の場合は全員、発表者本人の前に○をつける）、③所属・連絡先・電子メールアドレス、④分類（下の分類表I、およびIIから選択、記入例：第1希望B-1、第2希望E-5）、⑤代表者の会員番号をそれぞれご入力ください。締切日を過ぎますと、これらの内容は変更できません。

④の分類は、プログラム編成のために使用します。下記の分類表IとIIを組み合わせた記号で希望分野をご記入ください。

⑤の会員番号は、学会誌が送付された封筒の氏名欄右下に記された6桁の数字です。会員用「お知らせメール」にも記載されています。不明の場合は、日本農薬学会事務局（Tel: 03-5980-0281）にお問合せください。

分類表I	分類表II
A. 分子設計	1. 殺虫剤
B. 天然物化学	2. 殺菌剤
C. 合成プロセス, グリーンケミストリー	3. 除草剤
D. 作用機構, 抵抗性	4. 植物生長調節剤
E. 生物活性, 検定法	5. 防疫薬
F. 代謝, 分解, 動態	6. 生物農薬
G. 製剤, 施用法	7. 環境化学物質
H. 残留, 分析法	8. その他 (簡単な内容をご記入ください)
I. 環境科学, 生態影響	
J. 毒性	
K. 遺伝子科学	
L. レギュラトリーサイエンス	
M. その他 (簡単な内容をご記入ください)	

VII. 講演要旨原稿の作成について

講演要旨原稿は紙媒体をえません。学会ホームページの「大会案内」からダウンロードした『一般講演要旨原稿テンプレート』に上書きすることにより要旨原稿を作成し、WordファイルおよびそれをPDF化したファイルとして、VI.の項に示したトップツアール(株)の事前参加登録ページの「一般講演申込」において、ファイルをアップロードすることにより提出していただきます。原稿はそのまま大会事務局でA4版にプリントアウトし、オフセット印刷します。要旨提出締切は、平成26年1月20日(月)です。

- 要旨原稿はMicrosoft Word for WindowsもしくはMicrosoft Word for Macにて、『一般講演要旨原稿テンプレート』に上書きして作成ください。図表を挿入しても差し支えありません。なお、1演題につき用紙1枚に限ります。要旨原稿作成にあたっては、要旨記入例を参照ください。要旨記入例は、大会ホームページからダウンロードできます。
- 書式(一般講演要旨原稿テンプレートおよび要旨記入例を参照)
 - A4判用紙を用い、上下25mm、左右20mmを余白とした枠内に記入してください。
 - 演題および氏名(所属)を最上部に書き、左側には25mm(余白と合わせて45mm)の空白を設けてください。発表者が連名の場合には、講演者の前に○印を付けてください。
 - 演題・氏名(所属)・要旨本文および脚注を、それぞれ改行してこの順に書いてください。氏名(所属)と要旨本文の間には、空白行を1行設けてください。
 - 全行数(演題、氏名、脚注などを含む)は36行程度で書いてください。
 - 要旨本文は、目的・方法・結果および考察に分けて、具体的に書いてください。特に、結果および考察については、その内容を把握できるようにしてください。
 - フォントは12ポイントで、演題は太字にしたゴシック体(「MS Pゴシック」を推奨)を、それ以外は明朝体(「MS P明朝」を推奨)を使用して下さい。数字やアルファベットは原則として半角文字を使ってください。
 - 枠内の最下部から30mmまでの領域内に、脚注として英文による演題と氏名(所属)を書き込んでください。
 - 英文で記述する場合は、フォントにできる限り「Times New Roman」を用い、上記の様式に準じてください。
- 要旨原稿ファイルは、WordファイルおよびそれをPDF化したファイルの両方で提出していただきます。PDF化に際しては、図表に充分な解像度があるか、文字化けはないか発表者自身で確認してください。
- ファイル名はそれぞれ(氏名の半角英小文字.doc)、(氏名の半角英小文字.pdf)としてください(「京都太郎」の場合は、kyototarou.docとkyototarou.pdfとなります)。
- 大会講演要旨集に掲載された各要旨の著作権(複製権、公衆送信権を含む)は、日本農薬学会に帰属しますので、必ず「共著者全員の同意のもと承認します」の承認ボタンにチェックを入れてください。

VIII. 一般講演について

講演はすべて、Microsoft PowerPoint(バージョンは97から2010まで)で作成されたファイルを液晶プロジェクターで投影

して行います。講演時にトラブルが起きないように、下記の注意点を参考にしてファイルの作成と受付を行ってください。

使用するノートパソコン（OS：Windows 7）には、最新のMicrosoft PowerPoint Viewer（無料ソフト）がインストールされています。舞台上のPCは、補助者はつきますが、原則として演者の方ご自身で操作していただきます。

ファイル作成の注意点

- (1) 発表1題につき1つのファイルを作成し、ファイル名は講演番号_講演者名（半角英数のみ使用）.ppt（あるいは.pptx）としてください。
例：A101_Kyoto.ppt
- (2) 講演時間は1題15分（講演12分、討論3分）です。12分の発表時間に適したスライドの枚数にしてください。また、遠距離からも十分見えるよう、文字のサイズやフォントの選択に留意してください。
- (3) スライド中に使用するフォントは、文字化けを防ぐために機種依存文字（①、(株)など）の使用は、極力避けてください。
- (4) 動画等を含む大容量のファイルはトラブルの原因になりますので、極力避けてください。やむを得ない場合は、ファイルを可能な限り圧縮してください。
- (5) 作成されたファイルはWindows版のPowerPointでスムーズにスライドショーができることを確認してください。特にMacintoshをご使用の方は、ファイルをお持ちいただく前に、Windows版のPowerPointで動作確認を各自お願いいたします。特にフォントずれや文字化け、オブジェクトの非認識等にご注意ください。

データ受付の流れ

※発表ファイルの受付は、原則として3月13日（一般講演前日）に済ませてください。発表者が受付できない場合は、共著者の方が代わりに行ってください。発表直前の受付はご遠慮ください。

- (1) 発表用ファイルはUSBメモリに保存してお持ちください。
- (2) 総会会場の受付付近に設置した「発表ファイル受付」にて、ウイルスチェックを行なった後、発表ファイルをコピーしていただき、スライド動作に問題がないかどうかを確認してください。
- (3) 万が一のトラブルに備え、発表用ファイルの入ったUSBメモリは、発表時にご持参ください。
- (4) 大会終了後は、講演会場用PCにコピーされた発表ファイルは組織委員立会いの下、確実に削除いたします。

IX. 参加登録（事前参加登録締切は平成26年2月3日（月））

参加登録は平成25年12月2日（月）から、Web上で開始致します。トップツアー（株）の事前参加登録ページ (<https://conv.toptour.co.jp.shop/evt/pssj39>) にアクセスしてください。

「初めての方はこちらから」のボタンをクリックし、ID（メールアドレス）、パスワードを登録しログインします。参加者の連絡先入力後、大会参加、懇親会参加、宿泊予約等を行ってください。

登録手続き完了後、登録内容をお知らせする電子メール（「ID登録完了のお知らせ」）がお手元に自動配信されます。このメールにより、参加登録手続きの完了と申込内容が確認できます。申込内容を確認後、参加登録ページの「支払」から支払い手続きを行ってください。参加費の支払い方法の詳細については支払い方法登録確認のメールにてお知らせ致します。

支払いはクレジットカードのみとなっております。公費・校費による支払いはお受けできません。

1. 事前登録割引：平成26年2月3日（月）までとさせていただきます。これ以降は、すべて当日受付とさせていただきますので、大会会場にてお申込みください。スムーズな当日運営のため、事前登録割引にご協力いただきますよう、よろしくごお願い申し上げます。

	会員種別	参加登録費	備考
大会参加費 (講演要旨集1部の代金を含む)	正会員	5,000円	2月4日（火）以降は7,000円
	学生会員	2,000円	2月4日（火）以降は3,000円
	非会員	8,000円	2月4日（火）以降は10,000円
	講演要旨集のみ	3,000円	送料込み（大会終了後発送します）
懇親会費	正会員・非会員	5,000円	2月4日（火）以降は7,000円
	学生会員	2,000円	2月4日（火）以降は3,000円

※植物防疫関係2学会（日本植物病理学会・日本応用動物昆虫学会）および日本雑草学会と植物化学調節学会の正会員・学生会員も本学会会員と同じ参加費です。

2. 大会参加登録費用に相当する領収書（参加登録費・懇親会費）は、その内容を記載した参加証をもってかえさせていただきます。
3. 事前参加登録し、参加登録費をお支払いいただいた方は、事前参加登録ページの大会参加証引換券発行ページから大会参加証引換券を印刷することができます。その引換券を印刷して、宿泊等の必要情報を記入いただき、学会当日、大会受付へ提出ください。参加証を引き換えにお渡しします。

X. 宿泊および昼食について

IX.の項に示したトップツアー（株）の事前参加登録ページから、京都駅および近隣のホテルの宿泊を予約できるように致しましたので、ご利用ください。会期中の昼食ですが、最寄りの生協食堂が耐震工事中のために利用できません。ご希望の方には、農学部近隣の「飲食店マップ」を受付でお渡しします。また、吉田キャンパス内の生協食堂はご利用になれます。

お問合せ

京都大学大学院農学研究科 応用生命科学専攻
日本農薬学会第39回大会実行委員会事務局
住 所：〒606-8502 京都府京都市左京区北白川
TEL: 075-753-6406
担当者：村井 正俊
e-mail: m_murai@kais.kyoto-u.ac.jp

農薬科学研究補助金の交付申請について

日本農薬学会では農薬の必要性、農薬のリスクと安全性を理解していただくための活動の一環として、農薬環境研究補助金交付制度を平成18年度から発足させ、平成23年度までに計10件の研究に対して補助金（30～45万円）を交付しました。その成果は日本農薬学会大会において発表され、また一部は研究論文として日本農薬学会誌に掲載されました。

平成24年度からは、農薬の環境科学研究のみでなく、作物保護に必須の資材である農薬の研究を支えることで社会に貢献するという日本農薬学会の原点に立ち返り、基盤となる化学と生物の領域の研究強化・支援を図るための一環として、補助金の対象を広く農薬科学研究全般に広げることとし、補助金額を1件50万円に増額して年間2件の研究に対して補助金を交付しています。

平成26年度につきましても、下記の応募要領に従い募集します（交付は2件）。

（対象となる農薬科学の研究テーマ）

1. 作用機構
2. 抵抗性
3. 生物活性・検定法
4. 天然物化学
5. 分子設計・合成プロセス

6. 代謝・分解・動態
7. 残留性・残留分析
8. 環境科学
9. 生態影響
10. レギュラトリーサイエンス
11. 製剤・施用法
12. 生物農薬
13. 遺伝子科学
14. 毒性

すべて、内容は基礎、応用を問いません。

(応募資格)

筆頭研究者は農薬学会正会員（学生会員を含む）であり、かつ申請年度後少なくとも3年間は正会員であること。なお、応募にあたっては、必ず所属長の承認を得てから応募して下さい。

（ここでいう所属長とは、指導教員、室長、部長、所長等を意味します。）

(研究期間)

研究補助金が対象とする研究期間は補助金を交付する4月初日から1年間です。

(研究成果の報告・発表義務)

研究成果は助成期間終了後、1ヵ月以内に所定の様式にしたがって報告するとともに、1年以内に日本農薬学会大会で口頭発表していただきます。

成果の学会誌への論文発表もご検討願います。

(研究補助金の規模)

原則として、1件50万円、年間2件以内の試験研究に対し、補助金を交付いたします。研究遂行の目的であれば、特に用途の限定はありません。

(応募方法)

所定の農薬科学研究補助金交付申請書用紙に必要事項を記入し、平成25年11月29日（当日消印有効）までに日本農薬学会事務局宛に郵送して下さい。例年より締切日が早くなっていますので、ご注意ください。

(選考)

申請書に記された内容を日本農薬学会農薬科学研究補助金交付者一次審査会議において厳正審査の上、日本農薬学会常任評議員会において二次審査を行って決定致します。

(補助金の交付)

平成26年度の農薬学会総会による予算の承認を経た後、平成26年4月以降に交付致します。

(研究を中止した場合の報告義務)

途中でやむを得ず対象研究を中止するときは、中止の理由を記した書類を添えて、遅滞なく学会事務局に報告してください。この場合、原則として補助金は返却していただきます。

(補助金制度の適用期間)

この研究補助金制度は平成27年度まで継続する予定です。各年度に新たに公募いたします。なお、同一研究者への継続交付や再度の交付も可能です。

補助金申請書・研究成果報告書の書式は日本農薬学会ホームページからダウンロードするか、日本農薬学会事務局にご請求ください。

連絡先：〒114-0015 東京都北区中里2丁目28番10号

日本植物防疫協会内 日本農薬学会 事務局

電話：03-5980-0281 FAX: 03-5980-0282

E-mail: nouyaku@mocha.ocn.ne.jp

第13回IUPAC農業化学国際会議の渡航費補助について

第13回IUPAC農業化学国際会議が、2014年8月10日から14日の日程でアメリカ・サンフランシスコにて開催されます (<http://www.iupac2014.org>)。参加登録締切り、ポスター発表用の講演要旨の締切り等の詳細は2013年12月頃に案内される予定です。本会議に出席される会員の方に対して、国際学術交流基金よりその渡航費用の一部を補助する予定です。詳細は、ホームページ及び次号のニュースレターでお知らせいたします。

技術士試験対策セミナー

日本農薬学会では関連学会と連携して、会員の皆様の技術士（農業部門・植物保護）資格の取得の推進を図っております。本年度、日本農薬学会大会（京都大学）において、「技術士試験対策セミナー」を開催する予定です。2014年3月15日（土）午後に京都大学農学部総合館にて開催します。内容は技術士制度、技術士試験の説明および受験体験談を予定しておりますが、詳細は追ってご案内致します。

また、日本農薬学会会員の方は、関連学会（日本植物病理学会、日本応用動物昆虫学会、日本雑草学会）の大会で開催されるセミナーに無料で参加することができます。日本農薬学会大会に参加予定の無い方、日程等ご都合が合わない方はご利用下さい。関連学会でのセミナーにご参加の場合は、日本農薬学会誌封筒（会員番号とご氏名が明示されているもの）をご持参の上、会場でご呈示下さい。なお、関連学会の当該セミナー参加のみ無料で、大会に参加をご希望の場合は別途大会参加費等が必要になりますのでご注意ください。

関連学会の日程は以下の通りです。詳細は関連学会のホームページをご参照下さい。

日本植物病理学会大会（札幌市）：6月2日～4日

日本応用動物昆虫学会大会（高知市）：3月26日～28日

日本雑草学会（小金井市）：3月29日～30日

発行所：日本農薬学会

〒114-0015 東京都北区中里2-28-10

一般社団法人日本植物防疫協会内

TEL: 03(5980)0281 FAX: 03(5980)0282

E-mail: nouyaku@mocha.ocn.ne.jp